

9:6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

<説教>

このイザヤ書に記された箇所は、イザヤのキリスト預言、またいわゆるクリスマス・メッセージとして良く知られています。イザヤは紀元前8世紀（700年代）を中心に南王国ユダで活動した預言者でした。ユダの兄弟国である北王国イスラエルは神への不従順のゆえに大国アッシリアによって滅ぼされ、アッシリア捕囚という神のさばきを受けます。同じ頃はユダ王国にとっても暗黒の時代でした。「『行って、この民に告げよ。』聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉ざせ。彼らがその目で見ることも、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癪やされることもないように。」（イザヤ 6:9-10）と神がイザヤに仰せになるほど、ユダの人々の心は神から離れ、不信仰で、その罪を悔い改めるのが困難な状況でした。ユダ王国はバビロン捕囚という神のさばきをやがて受けるということを後にイザヤはヒゼキヤ王に宣告することになります（II列王 20:16-18）。

そんな危機的状況にあるというのに人々は主なる神に聞こうとせず、〈靈媒や、ささやき、うめく口寄せ〉に伺いを立てているていたらくではとても〈夜明けはない〉状況でした（イザヤ 8:19-20）。あるのは〈苦難と暗闇、苦悩の闇、暗黒、追放された者〉（8:22）でした。

しかし、そんな最悪の中でも、神はイザヤに、ご自分の民に対する一方的なあわれみと恵みのみわざを後に行われる、その御意思をお示しになりました。〈しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフトリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは栄誉を受ける。闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く〉（9:1-2）と。後に主イエスがガリラヤのカペナウムに住まわれて宣教を開始なさったことでこのイザヤの預言が成就したとマタイの福音書に記されています（マタイ 4:12-17）。

そのように神のあわれみ、恵み、力によって「闇の中・死の陰」から「光」の中へと移された民の喜びが如何に大きいか、そして更に神が喜びを増し加えてくださるかをイザヤは預言しました。〈あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ〉（イザヤ 9:3）。「あなたは」、「あなたの御前で」とイザヤが言うように、これは不信仰で不従順なご自分の民に対する、ただ神のあわれみ、恵み、善き御意思、力、そして真実によることなのです。

そういう真実な神の恵み、あわれみの御意思いとみわざが神の民の喜びの源です。それ

でイザヤはその理由を、つまり神がなさろうとしておられるみわざ、民に大きな喜びを与えるみわざを挙げて行きます。一つは神が、ご自分の民が〈負うくびきと肩の杖、彼を追い立てる者のむちを、ミディアンの日になされたように打ち砕かれるから〉です(4)。〈ミディアンの日〉とは、かつて神が士師ギデオンをして、たった300人の兵で、それより遙かに大勢のミディアン人の軍勢を打ち破った出来事のことです(士師 6-7章)。そのように神はご自分の民を苦しめ、死と暗闇に投げ入れる敵のくびきを打ち砕き、民を解放してくださいます。それで神の民は大喜びするのです。この敵とは目に見えるところではアッシリアや後のバビロンということになるでしょうが、それは同時に悪魔と罪と死という根本的な敵ということです。

大きな喜びの二つ目の理由は〈まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる〉(5)からです。神の力で敵を打ち破った後はもう戦いに使った履き物や衣服が全く必要なくなる、つまり完全な平和が訪れるからです。

そして大きな喜びの三つ目の理由が、〈ひとりのみどりご〉が生まれることです。〈ひとりの男の子〉が与えられることです(6)。しかもそれは他ならぬ〈私たちのため〉、〈私たちに〉です。誰から?もちろん〈あなた〉(3,4)とイザヤが呼んでいる主なる神からです。この〈ひとりのみどりご〉〈ひとりの男の子〉が主イエス・キリストでした。神の民の究極の敵である悪魔と罪と死に対する勝利、そして神の民の完全な平和は主イエス・キリストによって実現するのです。その主イエス・キリストは〈私たちのために生まれ〉てくださいり、神によって〈私たちに与えられ〉るとイザヤは預言しました。〈この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです〉(マタイ 1:21)。ダビデの町でお生まれになった主キリストは〈あなたがたのための救い主〉でした(ルカ 2:11)。イザヤが直接に言ったユダの人々〈私たち〉、またヨセフやマリアや羊飼いたち〈あなたがた〉とは、確かに時間を越えて今日の私たちのことでもあります。神は今の私たちに対しても、〈ひとりのみどりご〉〈ひとりの男の子〉(だった)主イエス・キリストによって、主イエス・キリストを通して、あわれみ、恵みを示し、与えてくださるのです。

それにしても、主イエス・キリストは、見るところは弱く、貧しく、何の力も無い〈みどりご〉としてこの地上に生まれてくださいました。しかしその〈みどりご〉イエスは真的神、神の御子でした。天地万物世界を造り、保ち、支配し、さばく〈主権はその肩にあります。そしてその〈肩〉は私たち罪人の罪を全て一身に担い、文字通り十字架を担われた〈肩〉でした。

みどりごイエスは「不思議な助言者」と呼ばれます。「不思議」とは「驚くべき、感嘆すべき」という意味です。イエスご自身、私たちが驚くべき、誉め称え礼拝すべきお方です。そのお方が私たちの助言者となってくださいます。驚くべき神のみことばを、福音を私たちに教え、私たちを助け導いてくださいます。〈このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されています〉(コロサイ 2:3)。私たちは必要な全てを、求めるべき全てを「不思議な助言者」イエス・キリストのうちに求めることができるし、求めなければなりません。そしてイエスは私たちのために神のみことばを、福音をご自身で完全に実行し、実現なさる、そして悪魔と罪と死に打ち勝たれる「力ある神」です。私たちを見捨てず、あわれみ愛してご自身をこの世にお遣わしになった天の父なる神とイエスは永遠に一つのお方であり、イエスは永遠に父なる神に完全に従順なお方です。それゆえに「永遠の父」

と呼ばれます。そしてイエスは「平和の君（王子、頭、支配者、指導者、監督者）」です。イエスは私たちを〈十字架によって神と和解させ〉（エペソ 2:16）てくださいました。〈私たちは…、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています〉（ローマ 5:1）。この神と和解し神との平和を持っている心で私たちは隣人をも愛し、隣人との平和を造っていくのです。

このようにいくつもの素晴らしい呼び名を持っておられ、その呼び名通りの、呼び名に相応しいお働きを、罪深い私たちのためにしてくださった、くださっている主イエス・キリストに感謝し、喜んで、信じ、キリストを礼拝して生涯を歩みましょう。